ISSN 1346-9541

信州大学留学生センター年報
第5号

2004年4月～2005年3月

信州大学留学生センター

巻　頭　言

留学生センター長　唐　澤　　豊

平成10年に５万１千人であった我が国の留学生総数はその後急激に増加し、平成16年には11万７千人に達し、その伸びは鈍化の傾向はあるものの未だ増加の傾向にあります。そのうち外国政府派遣、日本政府国費留学生が合わせて約１万２千人ですから、ほとんどが私費留学生であり、この私費留学生の生活支援はどこの大学にとっても大きな課題であります。

平成18年度の文部科学省の留学生関係の予算要求の要旨をみますと、我が国の国際競争力の強化、国際貢献および大学の国際化の推進のため、平成15年12月の中央教育審議会答申「新たな留学生政策の展開について」や先般のＧ８サミットにおける総理発言、「文化外交の推進に関する懇談会」（平成17年７月）の提言等を踏まえ、①留学生の質の確保及び受け入れ支援体制の整備・充実、②相互交流を重視した日本人の海外留学支援の充実を図り留学生交流を推進することが必要である、としています。

その要旨に則り、平成18年度の文科省の留学生に関連する概算要求では、昨年度と比べ、国費外国人の受け入れに５億８千万円増、私費留学生等の援助に２億５千万円増、留学生に対する教育・研究指導の充実等のために１億８千万円増を要求しています。この増加額は全部合わせても約10億円ですから、10万人弱の私費留学生に均等に配ったとしますと、一人当たり１万円にしかならない額であります。したがって、苦しい財政状態のなかでの政府の精一杯の努力であっても、これらの支援を受ける留学生や大学にとってその効果はほとんど実感できないほどのものでしょう。

では留学生を預かる大学としてはどうこれに対応していくのでしょうか？結論は誠に単純でありふれたことですが、限られたマンパワーと創意工夫によって、多岐にわたり時には困難な留学生業務に対処するしか方法がありません。留学生に関わる私どもの一層の努力と力量が問われている時であるともいえます。

一方日本人学生の海外派遣には力をいれていて、平成18年度予算で要求では、昨年に比べ海外留学支援の充実に４千500万円増、その他奨学金貸与制度による海外留学支援は大幅に26億６千万円増、となっています。この度当留学生センターが初めて主幹として、オクラホマ州立大学と交流協定を締結することになりましたが、これを手始めとして本学学生の派遣についても枢要な役割を果たし一層信州大学の留学生の交流が活発になるよう努めたいと思っています。

センター年報がセンターの活動の精神的、学術的支柱としての役割を十分果たしていくことを期待し巻頭の言葉に代える次第です。

目　　次

巻頭言

目　次

留学生センター教職員と業務　1

日本語教育　3
・日本語研修コース……3
・日本語研修コース国際理解専攻クラス……9
・日本語・日本事情（共通教育）……11
・日本語補講……14

相談・指導業務　25

活動記録　30

交流事業　32

資　　料　34
・本学における外国人留学生数……34
平成16年度区分別数・平成16年度国別数……34
平成17年度区分別数・平成17年度国別数……35
部局別年度別推移……36
国別年度別推移……37
・交流協定締結大学一覧……38
大学間協定……38
学部間協定……40

留学生センター教職員と業務

（教職員は平成17年３月現在、業務は平成16年度）

○教育スタッフ

（専　任）	センター長・教授	村瀬さな子（精神医学・異文化間交流）
	教　授	高石　道明（教育行政）
	助教授	上條　　厚（国語学・方言学）
	助教授	村田　　明（言語学）
	助教授	佐藤　友則（日本語教育・国際交流）
（非常勤）	講　師	
	日本語研修コース	金子泰子、熊崎さとみ、合津美穂、下平菜穂
		中村純子、山本もと子、鈴木にし紀、梶浦麻子
	日本語補講	高石久美子、村田満見子、井出礼子、荻久保千秋
		高橋　亨、山本もと子、佐藤佳子、阿部敏子

○事務担当

学生部留学生課

課　長	木川　政夫
留学生係長	藤本　哲生
同係員	鍋嶋　真一
同事務補	藤井ゆり子
留学生センター係長	古平　克彦

○学内委員会およびセンター業務分担

学内各種委員会	
学内共同教育研究施設等管理委員会	村瀬さな子
留学生センター運営委員会	センター専任教員全員
防災委員会	村瀬さな子
国際交流委員会	村瀬さな子
情報処理センター情報システム運営委員会	高石　道明
共通教育企画部門会議	上條　　厚
セクハラ相談員	村瀬さな子
教育研究評議会	木川　政夫

○出版・広報

センター紀要	上條　　厚、村田　　明
センター年報	高石　道明、佐藤　友則
センターニュース	高石　道明
パンフレット	高石　道明、佐藤　友則
教員の指導用ハンドブック	村瀬さな子
留学生相談ハンドブック	村瀬さな子
外国人留学生の手引き	上條　　厚

ホームページ	佐藤　友則、高石　道明

○授　業

日本語研修コース	佐藤　友則
同　国際理解専攻コース	村田　　明
日本語・日本事情（共通教育）	上條　　厚
日本語補講	上條　　厚
日韓共同理工系学部留学生予備教育	上條　　厚

○交流・相談

留学生担当教員連絡会	村瀬さな子
相談業務	村瀬さな子
留学（送り出し）相談	佐藤　友則、村瀬さな子
交流事業（国内）	佐藤　友則、高石　道明、村田　　明
国際交流（渉外）	村瀬さな子、高石　道明、佐藤　友則
国際理解セミナー	村田　　明

○教　務

学　事	高石　道明

○自己点検

自己点検・評価	高石　道明、村瀬さな子

日　本　語　教　育

■日本語研修コース

○平成16年前期　日本語研修コース
［期　間］　平成16年４月～16年９月

［学習者］　12名

中国	研究生	信州大学医学研究科進学	男性
中国	大学院生	信州大学医学研究科在籍	男性（再履修）
中国	大学院生	信州大学医学研究科中退	男性（再履修）
ベトナム	大学院生	信州大学経済・社会政策科学研究科在籍	女性
ルーマニア	大学院生	信州大学工学系研究科（理）在籍	女性（再履修）
ドイツ	交換留学生	信州大学人文学部進学	女性
韓国	交換留学生	信州大学農学部進学	男性
韓国	交換留学生	信州大学農学部進学	男性
韓国	交換留学生	信州大学農学部進学	男性
韓国	交換留学生	信州大学人文学部進学	男性
韓国	交換留学生	信州大学人文学部進学	女性
韓国	交換留学生	信州大学人文学部進学	女性

平成16年前期は、学習者の過半数が交流協定校から来た交換留学生だった（７名）。このうち、韓国・尚志大学校農学部からは初めて３名の交換留学生を受け入れて指導した。この３名はコース修了後に農学部に移動して専門分野の指導を受け、うち１名は半年後に総合工学系研究科（農）へ進学し、さらに１名が06年４月より研究科入学を希望している。また、再履修希望者が３名いたことも特徴的であった。

［コース（週予定）］　２クラス
①Ａクラス（初級学習者対象）５名

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材	主教材	主教材	主教材	復習
	昼休み				
2	発音＋聴解	漢字	漢字	Project Work	作文
3	Tutorial	×	Tutorial	Project Work	×

１コマ　　９：30～12：30（休憩は適宜１回または２回）
３コマ　　13：30～15：00
４コマ　　15：10～16：40

（主教材）

主教材は『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』を使用した。ほぼ全ての学習者がひらがなから学習する「ゼロスターター」であり、特に韓国からの交換留学生のうち１名が遅れて来日し、４月末から参加するという状況であったが、非常に熱心かつ習得能力が高い学習者が多かったため、主教材の50課全てを指導することができた。そして、修了した４名全てがコース修了時には日本語によるコミュニケーションが

十分に可能となっていた。

(復習)

毎週金曜には、月～木曜に主教材で毎日１課を導入＋練習という非常に早いペースで指導した文法・文型の復習をし、定着と実際の運用能力の習得を目指した。

(Project Work)

この授業は、教科書を用いた活動ではなく、レベルの異なる学習者が教室の内外で様々な活動を行うものである。この学期の学習者達は、教科書を用いた活動だけでなくこの Project Work にも非常に熱心で、様々な調査や茶道体験などをし、日本事情の学習にも成果をあげることができた。

以下に Project Work の実施内容をあげる。

4月15日	松本街歩き　準備
4月22日	松本街歩き
5月6日	松本街歩き　報告会
5月13日	ホームページ作成活動
5月20日	調査発表　準備①
5月27日	調査発表　準備②
6月3日	調査発表　準備③
6月10日	信州大学付属中学校訪問
6月17日	調査発表　準備④
6月24日	茶道　体験
7月1日	調査発表　準備⑤
7月8日	おしゃべりパーティー準備①
7月15日	おしゃべりパーティー準備②・調査発表　準備⑥
7月16日	おしゃべりパーティー
7月22日	調査発表会

(発音＋聴解)

授業の最初45分ほどは発音を、残り45分ほどは聴解を指導した。発音指導では、録音＋自己モニターを利用した指導を行った。『みんなの日本語』の会話文を用い、読み上げた会話文を録音してから、学習者が自分の録音を聞いて、どんな問題点があるかを自己モニターした。聴解指導には『楽しく聞こう』と『初級用　毎日の聞き取り』を用いた。

(漢字)

『Basic Kanji Book vol. 1』を用いて指導した。

(作文)

『みんなの日本語　やさしい作文』を用いて指導した。

(テスト)

２回の月例テスト＋修了テストを実施した。月例テストでは、その１ヶ月の間に学習した文法、漢字および会話（ロールプレイ形式）のテストを行った。また、修了テストでは、この学期間に学習した全学習項目を対象にした文法、漢字、会話のテストを実施した。

(Tutorial)

学習者１名に教師１名がついて、個別指導を行った。

②Ｂクラス（初中級学習者対象）７名

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材	主教材	ミニ・プロジェクト	主教材	主教材
	昼休み				

2	漢字	読解	漢字	Project Work	作文
3	×	×	×	Project Work	×

(主教材)

月・火・木・金曜日は『テーマ別中級から学ぶ日本語』を用いて、主に中級レベルの表現と語彙を指導した。水曜日のミニ・プロジェクトでは、神社や放送局などを訪問して働いている人々へのインタビューなどを行い、それをもとにディスカッションなどをした。

(読解)

『留学生の日本語　読解編』を用いて指導した。

(作文)

『留学生の日本語　作文編』を用いて指導した。

(漢字)

『Intermediate Kanji Book vol. 1』を用いて指導した。

(テスト)

Aクラス同様、2回の月例テストと1回の修了テストを行った。

[コース（学期予定)]

4月初旬	学習者の受け入れ
4月5、6日	オリエンテーション
4月7日	開講式
4月8日	授業開始
5月25日	5月　月例テスト
6月23日	6月　月例テスト
7月26日	修了テスト
8月3日	修了発表会
8月5、6日	研修旅行（上高地&乗鞍へ）
9月29日	修了式

(評価)

学習者の評価は、このコースに関わった専任教員が修了判定会議を開いて行った。評価対象としたのは、各テスト結果と、通常の授業・生活面での日本語能力である。評価は、「通常のコミュニケーション能力」などの4項目それぞれにおいて、A～Dの四段階で行い、修了判定結果は、コメントをつけて進学先の指導教員へ連絡した。この学期においては、再履修の3名を除く9名が修了判定を受け、修了証書を授与された。

また、平成15年同様、個々の科目について担当教員（非常勤講師を含む）がA＋からFまでの成績をつけて成績証明書を発行した（A＋＝90点以上、A＝80～89点、B＝70～79点、C＝60～69点、F＝59点以下、不受講：出席率70%以下)。この成績証明書は、交流協定校においては、交換留学生の単位互換をする際に利用されている。

○平成16年後期　日本語研修コース

[期　間]　平成16年10月～17年3月

[学習者]　10名

パラグアイ	教員研修生	信州大学教育学研究科進学	女性
米国	研究生	信州大学人文科学研究科在籍	男性
タイ	研究生	信州大学総合工学系研究科（理）進学	女性

中国	研究生	信州大学医学研究科進学	女性
中国	研究生	信州大学医学研究科進学	女性
中国	研究生	信州大学医学研究科進学	女性
韓国	交換留学生	信州大学経済学部進学	女性
ドイツ	交換留学生	信州大学人文学部進学	女性
ロシア	交換留学生	信州大学人文学部進学	男性
ロシア	交換留学生	信州大学人文学部進学	男性

この学期には交換留学生が4名と前期同様多かったが、これまでの年度の後期コース同様、医学研究科へ進学希望を持つ研究生も多く在籍していた。この研究生達は、研修コースで日本語を集中学習しつつ、医学研究科で実験を進め、翌年3月に大学院入試を受けて医学研究科の大学院生となっていった。同様に、工学系研究科（理）の研究生として来日したタイの学習者も大学院入試を経て大学院生となった。また、ロシア・カムチャツカ教育大学からの交換留学生を研修コースで受け入れたのもこの学期が初めてだった（カムチャツカ教育大学との学生交流開始は平成15年10月）。

［コース（週予定）］　2クラス

Aクラス（初級学習者対象）4名

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材	主教材	主教材	主教材	復習
	昼休み				
2	漢字	発音＋聴解	Project Work	漢字	作文
3	Tutorial	×	Project Work	Tutorial	×

1コマ　　9：30～12：30（休憩は適宜1回または2回）
2コマ　　13：30～15：00
3コマ　　15：10～16：40

(主教材)

『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』を使用し、原則として1日1課のペースで指導したのだが、習得不十分な学習者が多く見られたためにペースを遅くし、全50課中45課を指導した。また、ある学習者に関しては特に習得が遅かったため、授業開始時間を20分繰り上げて専任教員が交代制で毎日の補講を実施し、さらに通常授業時間中も他の学習者と別メニューで指導した。なお、当初Bクラスに配属した学習者1名を、学習者の要望と授業での様子を見てAクラスへ移動させ、レベルにあった学習を行わせた。

(復習)

前期同様、月～木曜までに指導した文法・文型の復習を金曜に実施し、定着を図った。

(Project Work)

前期同様にProject Workを行った。活動内容は以下の通りである。

10月20日	教室外活動についての説明＋買い物タスク
10月27日	松本街歩き
11月10日	茶道と酒造会社見学　準備
11月17日	茶道　体験
11月24日	礼状書き＋新聞作成①（Bクラス学習者のみ）
12月1日	笹井酒造　見学
12月8日	おしゃべりパーティー準備①＋新聞作成②
12月15日	おしゃべりパーティー準備②＋新聞作成③
12月17日	おしゃべりパーティー
12月22日	年賀状書き　練習

1月5日	日本の正月　発表
1月12日	日本人と話そう①
1月19日	日本人と話そう②
1月26日	新聞作成まとめ

(発音＋聴解)

前期同様、発音は録音＋自己モニターで、聴解は専用教材を用いて指導した。

(漢字)

漢字圏出身の初級、非漢字圏出身の初級、非漢字圏出身の初中級と、多層のレベルの学習者がいたため、それぞれの学習者に希望の漢字教材を選択させて学習させた。教師は個々の学習者毎に復習テストを実施し、問題の解答チェックなどをした。

さらに、この時間内に習得が遅れている1名の学習者の文法補講も実施した。

(テスト)

漢字においては、学習者毎に教材も異なるためテストは実施せず、文法と会話について2回の月例テストおよび修了テストを実施した。

(Tutorial)

学習者1名に教師1名がついて、学習者と相談のうえ、指導を行った。

Bクラス（中上級学習者対象）6名

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	主教材Ⅰ	主教材Ⅱ	主教材Ⅱ	主教材Ⅰ	復習Ⅱ
	昼休み				
2	作文	漢字	Project Work	聴解	読解
3	×	×	Project Work	×	×

(主教材)

学習者の能力とニーズに応じて曜日毎に内容を変えて指導した。月・木曜は、口頭能力の向上を目指して『文化中級日本語Ⅰ』で指導し、火・水・金曜は、中級レベルの表現・語彙の習得を目指して『テーマ別中級から学ぶ日本語』で指導した。

(作文)

『留学生の日本語　作文編』を用いて指導した。

(漢字)

非漢字圏の学習者を対象に『Basic Kanji Book vol. 2』で指導した。

(テスト)

Aクラス同様、3回の月例テストと1回の修了テストを行った。

［コース（学期予定）］

10月初旬	学習者の受け入れ
10月12、13日	オリエンテーション
10月14日	開講式
10月15日	授業開始
11月24日	11月　月例テスト
12月24日	12月　月例テスト
12月25日～1月4日	冬休み
1月31日	修了テスト
2月8日	発表会
3月7日	研修旅行（上田＋別所へ）

3月24日	修了式

(評価)

この学期より、各授業の担当教師から提出される成績をもとに修了判定を行うよう、判定基準を大きく変更した。新たな判定基準は以下の通りである。

・4つ以上の授業において、Fまたは不受講より上の成績をとっている。

（A＋＝90点以上、A＝80～89点、B＝70～79点、C＝60～69点、F＝59点以下、不受講：出席率70％以下）

・コースの主要な授業である、午前中の文法・文型指導を受講している。

・コース末の修了発表会で発表を行っている。

この3つの基準を満たした者を修了と判定し、修了証書を授与することにした。

この結果、修了発表会に参加しなかった1名を除く9名が修了判定を受け、学長より修了証書を授与された。

■日本語研修コース国際理解専攻クラス

平成16年度も前年度同様多彩な国際理解専攻クラスを提供できた。伝統文化を実際に体験し、文学作品を読み、異文化理解・日本事情を学ぶことによって受講生の国際理解が深まったことを確信している。

前　期		後　期	
授　業	担当者	授　業	担当者
国際理解	高　石	日本語表現・文型	佐　藤
文学講読 I	上　條	文学講読III	上　條
異文化コミュニケーション	梶　浦	異文化コミュニケーション	梶　浦
伝統文化実習	村　瀬	伝統文化実習	村　瀬
日本語表現・文型	佐　藤	国際理解	高　石
文学講読II	上　條	日本社会と日本人	佐　藤
日本社会と日本人	佐　藤	日本の教育	高　石
日本の教育	高　石		

○コース修了者（国際理解専攻）

前・後期ともに5以上の授業で合格した者にコース修了証（国際理解専攻）が授与された。

前期

名　前	所　属
スヴィーリナ、アレフチーナ　ボリーソブナ	人文学部短期留学生
フラバータヤ、オレーシャ　ユーリエブナ	人文学部短期留学生
オヤ、テーム　エーメリ	人文学部短期留学生
李　慶美	人文学部短期留学生
沈　炫秀	人文学部短期留学生
ルス、レナタ　マリア	人文学部大学院生

後期

名　前	所　属
シュッツェ、ペギー	人文学部短期留学生
ボイカー、テレジア　ベレニーケ	人文学部短期留学生
李　慶美	人文学部短期留学生
許　庭銀	人文学部短期留学生

コース修了条件『5以上の授業で合格する』の「5」は、平成16年度前期までは開講授業数の60%の授業数として算出されていた。開講授業数の変動に伴なう不都合を解消するために、留学生センター運営委員会の審議を経て、平成16年度後期からは「5」に固定された。

◆国際理解専攻クラス（佐藤分）

平成13年より3年間行われてきた初級および初中級レベルの学習者を対象にしたSUNSの日本語補講が、平成16年度より国際理解専攻クラスの中の一授業と位置づけられた。これに伴い、従来の2コマの授業のうち1つが「日本語　表現・文型」となり、もう1つが「日本社会と日本人」となった。これらの授業は留学生センターの成績証明書を発行する対象となったため、交換留学で来ている学習者は出身大学で単位を受けられるようになった。

また、これまで同様にSUNS（Shinshu University Network System）を利用しているため、松本

の旭キャンパス、長野の西長野キャンパスと若里キャンパス、上田キャンパス、南箕輪キャンパスの計5キャンパスの留学生が受講可能となっている。この点は、松本以外のキャンパスの留学生指導教員から高く評価されている。

まず、「日本語　表現・文型」では初中級から中級レベルの学習者を対象とし、中級レベルの表現・語彙などの導入・練習を行った。教材は主に『日本語中級 J301』を用い、指導する文法毎に適宜他の教材も利用した。

もう一つの「日本社会と日本人」では、中級レベル以上の学習者を対象とし、様々な日本事情の知識提供とディスカッションを中心に行った。主教材は『日本を話そう　15のテーマで学ぶ日本事情』を用い、政治・歴史・日本人の集団意識から料理・伝統文化に至る広い範囲の日本の諸事情について指導した。

■日本語・日本事情（共通教育）

学部共通教育の１つとして開講されている「日本語・日本事情」は、平成16年度、次のように開講された。

日本語（表現中心）Ⅰ（前期）　Ⅱ（後期）　それぞれ１単位
　　前期・後期それぞれ、１コマ　上條厚担当、２コマ　佐藤友則担当
日本語（読解中心）Ⅰ（前期）　Ⅱ（後期）　それぞれ１単位
　　前期３コマ、後期２コマ　上條厚担当
日本事情（社会と人間（基礎））（前期）　２単位　村田明担当
日本事情（社会と人間（応用））（後期）　２単位　村田明担当
日本事情（日本の文化）Ⅰ（前期）　Ⅱ（後期）　それぞれ１単位　村田明担当
日本事情（自然環境と人間）（前期）　２単位　上條厚ほか担当
日本事情（長野県の自然環境と人間）（後期）　２単位　上條厚ほか担当

平成15年度と違うところは、日本語（読解中心）Ⅰを１コマ増やしたことである。前期において増えている。本来２コマの予定であったが、受講学生数が多かったので、１クラスの人数を緩和するために、１コマ追加した。それ以外は平成15年度と同じである。

日本語の授業はそれぞれ２コマないし３コマ開講されているが、学生はそれぞれの授業について１コマのみを受講する。日本事情はすべて１コマずつの開講である。学生は、最大16単位まで取得でき、その単位を外国語科目および主題別科目に振り替えることができるが、その扱いは学部・学科により異なっている。

◆日本語（表現中心）（上條担当分）

この授業は作文が中心の授業であるが、作文以外のことも行っている。ところが平成16年度は受講人数の関係もあり、作文だけで手一杯という感じであった。

学生の作文から、一部分を載せる。氏名は伏す。

日本の不思議なこと

中国・女

私は去年の十月に日本に来ました。この一年間でいろいろな日本の風俗習慣を見ました。自分の国の風俗習慣に比べて、日本にはたくさん不思議なことがあると思います。

例えば、去年十月、日本に来たばかりの時、私は京都に暮らしました。まもなく来た冬に、とても不思議なことを見ました。たくさんの女の子がスカートをはいていました。私はとてもびっくりしました。確かに中国の冬に比べ日本の冬はそんなに寒くないです。けれども、スカートをはくことはあまりにも度を越していると思います。私の中国人の友達はスカートが大好きなので、日本人を真似て、スカートをはいて学校に行きました。しかし、彼女はこの寒さにはさすがに参って、風邪を引きました。それからスカートをはくことは断念しました。

逆に夏に、ある女の子はシャツを二枚以上を着ていました。私がＴシャツ一枚着ていた時に、日本の女の子を見ると、彼女たちは中と外に別々の服を着ていました。「暑くないか？」という疑問を持ちました。

日本にはほかにも不思議なことがいっぱいあります。例えば、中国の味噌の種類はとても多いですが、でも用途は、ねぎやきゅうりや大根に付けることだけです。しかし、日本で味噌はお湯と一緒にして味噌汁にしています。とても不思議だと思います。

風俗習慣の相違によって、たくさん不思議なことがあるけど、それもとてもおもしろいことだと思い

ます。

私の誕生日

中国・女

それは一年半前のことでした。生まれてから今までで、最も有意義な誕生日だったと思います。日本に来てからずっと寂しかった私を、支えてくれる出来事でした。

去年、私はまだ日本語学校の学生でした。五月、私と私の友達は一緒に、ある財団の奨学生に選ばれました。その結果が知らされた日は、ちょうど彼女の誕生日でした。最初の奨学金支給の時、授与式が行われましたが、その日はちょうど私の誕生日でした。でも、私は平常心のままで友達と授与式に出かけました。

その日、授与式が終わってから、パーティーが始まりました。財団の会長が「今日はちょうど一人の新奨学生の誕生日だよ」とみんなに言いました。私は緊張しました。広くて明るい会場が暗くなって、一本の強い光が私を照らし、誕生日の歌が響いてきました。ウエーターが誕生ケーキを私の前に運んで来ました。四本のローソクが輝いていました。会場の人々はいろいろな大学や日本語学校から来ていて、私の知り合いではありませんが、一緒に誕生日の歌を歌ってくれました。私は涙が出るほど感動しました。

あれからもう一年半経ちました。今もつらい時や困った時、いつもその日のことを思い出します。知らない人々の笑顔や知らない人が歌ってくれる歌声を思い出します。それは私を支えてくれています。

留学生として、日本事情の勉強について

中国・男

周知のように、大学の履修案内に、留学生は「日本語・日本事情科目を取る必要がある」と書いてあるが、では、なぜ留学生は日本語・日本事情科目を取る必要があるのだろうか？　本論は、日本事情の勉強はどんな役を果たしているかについて論じることにする。

まず、私たち留学生は母国を離れてわざわざ来日した。日本事情を勉強しないと、日本人と交流することができない。それだけではなく、大学の授業を聞き取れなくて、成績がなかなか上がらなくて、日本人と友達にもなれなければ、せっかく日本へ来たという意味は全くないのではないだろうか。

一例を挙げると、先生の日本事情の授業で、専攻が建築である私は気づかないのうちに、日本の伝統建築について勉強になっていた。私は入門の日本伝統建築の知識を与えられて、ありがたいと思っている。私みたいな経験がある留学生は非常に多いであろう。

次に、私はこの前、上海である先輩を訪れた。彼は五年間日本に留学し、卒業後、上海に戻ってうまく就職した。それができた理由を聞いてみたら、まず、「大学時代に日本事情の授業を取って良かった！」という答えをくれた。その瞬間、私も同感だった。

日本事情を学べば、日本文化・歴史や地理やビジネスマナーなども理解できると言える。さまざまな知識を身に付けると、日本人と話しやすく、コミュニケーションもうまくできると考えられる。確かに、日本人のビジネスマナーを了解していないと、契約はなかなかうまく調印できないと思われる。

以上の理由に従って、日本へ来た我々留学生は、日本の大学で「日本語・日本事情科目」を取って、いろいろな日本に関する知識を養うべきだと思う。

◆日本語（表現中心）（佐藤担当分）

平成16年前期は、自作教材を利用して論文指導を行った。この教材は、15回という限定された授業時間内で有効に論文指導を行うために、市販の数冊の教材と担当者が独自に考案した教材を組み合わせて作成したものである。授業開始時の句読点の打ち方から始まり、論文で使ってはいけない日本語・論文特有の日本語などを指導し、さらに論文の構成と論理性について学習・練習させた。最終的に、自由なテーマで2,000字以上の論文を提出させた。評価は、その最終論文のレベルと出席率、授業での積極性、

宿題の提出率によって行った。

平成16年後期は、前期同様に自作教材をもとに指導した。まず、11月に行われる松本東ロータリークラブ主催のスピーチコンテストを利用して、スピーチ原稿の作成とスピーチの仕方（音声表現および態度）を指導した。その後、クラス内スピーチコンテストを実施し、次の授業でその評価を行った。ただし、ロータリークラブのコンテスト参加は学習者の自主性に任せた。スピーチ指導終了後はプレゼンテーション指導に移行した。まず、プレゼンテーションの優れた実例を紹介して学習者にプレゼンテーションのイメージを作らせた。そして、テーマを決めた後に Powerpoint のスライド作成、原稿作成と作業を進め、最後に全学習者が10〜15分ほどのプレゼンテーションとその後の質疑応答を行った。評価は、クラス内スピーチコンテストでのスピーチおよび最後の発表のレベルと出席率、授業での積極性、宿題の提出率によって行った。

■日本語補講

平成16年度の日本語補講は、下記のように行われた。

◆長野地区

初級　前期　火　10：00～12：00　木　10：00～12：00　荻久保千秋担当
　　後期　火　12：30～14：30　木　12：30～14：30　荻久保千秋担当
　主教材：『初級　語学留学生のための日本語Ⅰ』
初中級　前期　火　12：30～14：30　木　12：30～14：30　荻久保千秋担当
　　後期　火　10：00～12：00　木　10：00～12：00　荻久保千秋担当
　主教材：『文法が弱いあなたへ』
　　『日本語文法演習　敬語を中心とした対人関係の表現』
　　『日本語テスト　ステップアップ問題集　上級聴解』
　　『日本語テスト　ステップアップ問題集　1級対応』
　　『日本語テスト　ステップアップ問題集　2級対応』

◆上田地区

初級　前期・後期　火　10：00～12：00　金　10：00～12：00　井出礼子担当
　主教材：『語学留学生のための日本語Ⅰ』
　主教材：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』
初中級　前期　火　13：00～15：00　金　13：00～15：00　高橋亨担当
　　後期　月　13：30～15：30　金　13：30～15：30　阿部敏子担当
　主教材：『日本語初中級―理解から発話へ』

◆松本地区

初級　前期　月　13：00～14：30　水　13：00～14：30　村田明担当
　　後期　水　13：00～14：30　金　13：10～14：30　村田満見子担当
　主教材：ビデオ教材『日本語　見る・聞く・話す』
初中級　前期　火　13：00～14：30　木　13：00～14：30　村田明担当
　　後期　水　14：10～15：50　金　14：10～15：50　上條厚担当
　主教材：ビデオ教材『日本語　見る・聞く・話す』
　主教材：『中日交流標準日本語』

◆伊那地区

初級　前期　月　10：00～12：00　佐藤佳子担当　木　11：00～13：00　高石久美子担当
　　後期　火　9：30～11：30　山本もと子担当　木　11：00～13：00　高石久美子担当
　主教材：『みんなの日本語　初級Ⅰ』
初中級　前期　月　13：00～15：00　佐藤佳子担当　木　13：30～15：30　高石久美子担当
　　後期　火　12：00～14：00　山本もと子担当　木　13：30～15：30　高石久美子担当
　主教材：『みんなの日本語　初級Ⅱ』
　　『毎日の聞き取り50日　下』
　　『どんなときどう使う　日本語表現文型200　初中級』

次に各地区担当者からの報告より掲載する。（すべての地区・期ではない。原文を改編した所あり）

◆平成16年度前期　長野地区　初級　（荻久保千秋）
期　間：4月～7月
受講者：2名（中国1、バングラデシュ1）
修了者：2名
主教材：『初級　語学留学生のための日本語Ⅰ』
副教材：『初級　語学留学生のための日本語フォローアップ問題集Ⅰ』
『初級　毎日の聞き取り50日　上・下』
『わくわく文法リスニング99』
『初級日本語　ドリルとしてのゲーム教材50』
・授業内容と反省
昨年の初級受講生と留学生センターで初級を修了した学生の二人でスタートしたが、二人とも文法事項は一応知っていたので、学生が希望した聴解と会話を中心に授業を進めた。文法についてはすでに学んでいたのであまり説明などは必要がなく、授業では既習文型の復習と口頭練習を主にし、なめらかに日本語が出ることを目指した。
主教材は、昨年使用した『みんなの日本語』は学習項目が多く、一年では消化しきれなかった反省から、今年度は『初級　語学留学生のための日本語』を初めて使用してみた。学生たちがまったくの初心者ではなかったので、訳本がなくても不便はなく、テキストもイラストから考えて文を作る練習だったので、復習するには都合が良かった。『初級　語学留学生のための日本語フォローアップ問題集』には文法問題や読解教材、漢字練習もあり、家庭学習や音読練習などで利用したが、私は使いやすかった。
前期は結局2人だけで、後半になると1人の参加という日もあり、活発な授業ではなかった。初級を一通り終わったがまだ定着しない、というレベルの学生に対して、日本語に新鮮味を感じさせつつ初級の定着を図ることの難しさを改めて感じた。とくに中国人の学生は聴解力に問題があるのか、短い文レベルでの日本語さえリピートするのが難しく、なかなか文型が入っていかず、本人も悩んでいた。研究室でも、彼が研究発表を始めると他の学生が寝てしまうと言い、日本語能力不足を理由に発表が先伸ばしにされたと相談を受けた。研究室でどのような発表を日本語でするのか分からないが、日本語の文字導入から始めた学生の一年後にはこのような現実があることを知り、日常生活が円滑に行える日本語を習得するという補講のあり方とのギャップを感じた。

◆平成16年度前期　長野地区　初中級　（荻久保千秋）
期　間：4月～7月
受講者：9名（中国6、台湾1、バングラデシュ2）
修了者：8名
主教材：『文法が弱いあなたへ』
副教材：『初級　毎日の聞き取り50日　下』
『続・クラス活動集131』
『みんなの日本語初級Ⅱ　初級で読めるトピック25』
生教材：『朝日こども新聞』
ビデオ教材：『ビデオ講座』
（日本語能力試験対策クラス　火　10：00～12：00　上記登録者のうち中国3、台湾1）
主教材：『日本語能力試験直前対策　文字・語彙1級』
『日本語能力試験直前対策　文法1級』
『日本語テスト　ステップアップ問題集　上級聴解』
・授業内容と反省
受講者の殆どが昨年の初級の後半を未習で修了した学生で、中級に進むにはまだ定着不足の点が多かったため、文法の復習には『文法が弱いあなたへ』を使用した。文法を復習後にそれを使った会話を作

ったり、聴解教材を聞くなどの練習をしたが、授業の終わり20分は、非漢字圏の学習者には漢字を、漢字圏の学習者には読解や作文などを課した。

日本語の新聞が読めるようになりたいという希望があったので、『朝日こども新聞』をときどき使用した。ふりがなつきで社会面や政治面などの説明も子ども向けのためか分かりやすかったようだが、縦書きを音読するのには中国の学生でも苦労していた。

後期に中級へ進むことを考えていたが、結局後期には受講者するメンバーが大きく変わったので、今年度から前期・後期で修了証を発行したのは良い結果となった。

初中級受講希望者のうち、就職やその他で日本語能力試験１級を勉強したいという学生が４人いた。午前の初級クラスが２人ということもあり、６月から火曜日にクラスを設けた。文法や文字・語彙などは事前にプリントを配っておいたが、家でやってきた様子はなく、結局クラスで問題を解いていた。慣用句や副詞などで語彙を増やしたり、聴解では色々なパターンの会話を聞いたりして、受験対策一辺倒でない授業を心掛けた。

◆平成16年度後期　長野地区　初級　（荻久保千秋）

期　間：９月～１月
受講者：７人（全員中国）
修了者：５人
主教材：『初級　語学留学生のための日本語Ｉ』
副教材：『初級　語学留学生のための日本語フォローアップ問題集Ｉ』
『クラス活動集　101』
『初級　毎日の聞き取り50日　上』
『楽しく聞こうＩ』

・授業内容と反省

平仮名のみ知っているという新入生３人と昨年途中から不参加だった１人、前期からの継続１人という学生に、家族で松本から通って来ている人と、松本歯科大学の研究生という７人の構成だったが、常時参加は学生たちだった。

主教材には訳本がないので、文法などの理解に多少不安があったが、ボランティアの北沢先生より配布された『みんなの日本語Ｉ』の訳本を手にしていたようだ。学生たちに行ったアンケートでも、テキストに関しては分かりやすいという評価があり来年度への参考になった。

授業では口頭練習や場面練習、聴解、読解を行い、文法の問題などは家庭学習にしたが皆きちんとやってきており、答え合わせを兼ねた復習でも正解率が高かった。初級Ｉは20課なので、15週30コマでは一応終了する計算だが、途中から受講する学生のために復習をしたり、活用が導入された日は時間がかかったりして、終了間際までに終わったという感じで、余裕があるわけではなかった。

今年度は学生がとても少なく、毎回４～６人で行っていたので、普段ならできないようなことに色々時間がかけられた。その一つに、ペアでの会話練習や読解問題の長文を音読するときなど、毎回録音をしてその場で学生に自分の話す日本語を聞かせてみた。始めは緊張したり恥ずかしがっていたが、慣れてくると自分で意識してアクセントやイントネーションなどに気をつけて話すようになった。終了近くなると医者と患者、母親と息子など役割を演じた声を出すなど、録音する学生もそれを聞く他の学生たちも楽しめるようなっており、やってみて良かったと思う。

一見早口で流暢そうだが正確性に欠け、自分の考えなどはきちんと表現できない学生や、口は重いが長い作文をスラスラと書いてしまう学生、巷の高校生の話す日本語が自然と出でくるもののきちんとした日本語は知らないという人など、バラエティーに富んだクラスだったが、非常に向学心に燃えていたことは共通していたので、やり甲斐があった。

◆平成16年度後期　長野地区　初中級　（荻久保千秋）

期　間：9月～1月
受講者：7名（中国5、台湾1、韓国1）
修了者：5名
主教材：『日本語文法演習　敬語を中心とした対人関係の表現』
『日本語テスト　ステップアップ問題集　上級聴解』
『日本語テスト　ステップアップ問題集　1級対応』
『日本語テスト　ステップアップ問題集　2級対応』
副教材：『テーマ別中級で学ぶ日本語　ワークブック』
『毎日の聞き取りPLUS40』
『1日10分の発音練習』
『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』
『ロールプレイで学ぶ日本語Ⅰ』
生教材：『朝日新聞』
『ジャポニカロゴス』（フジテレビ番組）

・授業内容と反省

前期から引き続き登録した学生が4人、新入生が1人、家族が2人でスタートしたが、卒業を控えた2人は後半は就職活動や進路関係で休みがちで、家族の人も1名は子ども関係で来なくなり、常時出席は3～4人という感じで少なかった。学生の中には火曜日のみしか参加できないという人もいて、授業の内容もそれに合わせ、火曜日は聴解や会話、敬語をメインとし、木曜日は日本語能力試験対策の文法や聴解練習とした。

学生たちの日本語のレベルを考えると初中級というよりはむしろ上級という感じで、何かをテキストに沿って教えるというよりも、ワンランク上の日本語を目指すという意識が学生の中にあったので、敬語や発音などを多く入れた。

また大学の授業で必要だということで、『テーマ別で学ぶ日本語ワークブック』の聴解問題のディクテーションをやった。日本語を書き入れた後は、会話練習をし、それを録音して聞かせたが、日本語の縮約形や感情を表すイントネーションなどに興味を持ち、積極的に役割を演じていて面白かった。

今年度は日本語能力試験対策を授業で行ったが、限られた時間数では限界があり、来年度は個人的にしてほしいが、補講に来る学生は周囲の1級を持っている学生に焦りを感じるようで、希望の声が多く聞かれる。日本語の補講が受け持つ幅が広くなっている気がする。

◆平成16年度前期　上田地区　初級　（井出礼子）

期　間：4月～7月
受講者：6名（中国男2、女2、韓国女1、モンゴル男1）
主教材：『語学留学生のための日本語Ⅰ』
副教材：『みんなの日本語Ⅰ文法解説（中国語版）、（英語版）』
『毎日の聞きとり50日初級IJ』
『楽しく聞こうⅠ』
『みんなの日本語　書いて覚える文型練習帳』
『語学留学生のための日本語Ⅰフォローアップ問題集』
『クラス活動集　101』
『絵でマスターにほんご基本文型85』
『初級で読めるトピック25』
『日本語ジャーナル』

・授業内容

受講者は全員“ひらがな”、“カタカナ”は既に学習してきている。

２名は前年度後期の初級の授業『みんなの日本語Ｉ』を何回か受講していて、動詞のフォームも少し理解できている。来日したばかりの家族１名も自習しており、ゼロ学習者ではなかった。

この家族受講者は１年後位に院生になる目的があり、出席率もよく、熱心で理解も早く、習った文型を使って話そうとする意欲が強かった。

以上の３名は日常のあいさつ、数字、月日などの基本用語、動詞の活用に入る前の文法事項を４週で終える計画を立て、主教材は『語学留学生のための日本語Ｉ』とし、副教材に『みんなの日本語Ｉ文法解説中国語版』を与え、ほぼ計画通りに動詞の活用に入ることが出来た。

クラスではできるだけ導入した文型を使って会話となるようなシートを準備した。話す時間を出来るだけ多く取った。

聴解には『毎日の聞き取り』と『楽しく聞こう』から、習った文型が入っているところを選び入れていった。

聴解に予定した以上の時間がかかったが、日本人と話そうとしても相手の言っていることが聞き取れないということで、聴解へのニーズが強く、毎回入れるようにした。

文型の確認、復習として『語学留学生のための日本語フォローアップ問題集』や『みんなの日本語書いて覚える文型練習帳』を適宜宿題とした。

長文になれるように『初級で読めるトピック25』も時々入れた。

前期の最後に作文を書かせたが、助詞の間違いがあったものの各人の考えが予想したより長い文で書けていた。

７月末までに動詞の普通形（『語学留学生のための日本語』17課まで）学習することが出来た。

・反省

①教材について

今回始めて『語学留学生のための日本語』を主教材としたのは、『みんなの日本語』をコンパクトしたようなテキストで、短期間に日本語を習得したい人たちのためにいいと考えたからである。

この訳本は出版されていないが、新出語彙のイラストがあり、漢字にふりがなもあり、問題がないと思われたが、自宅学習用のためにはやはり、初級では訳本があるほうが受講者は安心できるように思えた。

②授業のレベルについて

韓国人の研究者は初級文法を自国で学習済みだが、会話が不安ということで初級の受講を希望したが、文法事項、語彙力、会話もかなり出来ると判断し、初中級の受講を勧めた。

しかし、前期の初級と初中級は授業内容にかなり差があり、初中級は難しすぎるということで、結局初級に来ていたが、研究が忙しく６月半ばから出席できなくなった。初級、初中級の両方の授業に合わなかったのではないかと思う。

６月中旬、ゼロ学習に近い研究者（中国人）が受講、彼は明らかに他の受講者とはレベルが違うため、同じ授業の中で別々のことをせざるを得なくなった。７月にはモンゴル人（家族）が加わったが、このモンゴル人は他の受講者より、レベルが高く、漢字を書く、読むこと以外は問題なく授業が進められた。

以上のように前期は、家族、研究者の多いクラスとなり、学生が中心の補講とはいえ授業に来れば皆同じで途中参加の人の遅れをどのようにカバーして行くかが問題となり、その人のために時間を超過するなどの課題が残った。

◆平成16年度後期　上田地区　初級　（井出礼子）

期　間：10月～２月

受講者：10名（全員中国、男８、女２）

主教材：『みんなの日本語初級Ｉ・II』

副教材：『みんなの日本語初級Ｉ・II　書いて覚える文型練習帳』

『クラス活動集101』『続・クラス活動集131』

『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ　初級で読めるトピック25』
聴解教材：『みんなの日本語初級Ⅰ　聴解タスク25』
『初級毎日の聞き取り50日』
『みんなの日本語初級Ⅱ　会話ビデオ』

1）初めに

後期は例年通り、蘇州大学からの研究生４名が来日。いずれも中国で３～６ヶ月位日本語を学習してきており、内２名は初中級のレベルであった。

彼らより少し遅れて来日した学生、研究者も学習歴があり、前期から引き続いて初級を登録した受講者とほぼ同レベルであった。前期途中から受講した研究者だけが初級の初期の段階であった。

2）授業内容

主教材を『みんなの日本語Ⅰ』とし、22課から始めることにし、２週間はレベルを揃えるべく、毎回復習として、絵カード、フラッシュカードを活用し、動詞のグループ分けの確認、フォームの使い方、形容詞の使い方の練習を行った。

受講者のニーズはまず話す、聞くであったので、できるだけ文型の口頭練習から会話への流れになるよう計画、毎回少しでも聴解を入れるようにした。

新出語は絵カード、写真などを使い、文型導入、練習後は、準備したシートで文型を運用できる会話や『活動集』を利用した。

毎回習った文型の確認に『聴解タスタ25』を使った。これは『みんなの日本語Ⅰ』に連動しているのでやりやすかったが、聴解に関しては、かなりレベル差があり、慣れるまでは１課を２回に分けたり、聞き取れない学生のため予定の時間をオーバーすることがたびたびあった。

書くことは授業時間にはあまり行わず、短文作成や『書いて覚える文型練習帳』を宿題としてチェックし確認をした。宿題の提出率は100％ちかく、休んだ日の分は友達から受け取るなど復習としてのリズムができていた。

読解としては各課の終わりに『初級で読めるトッピク25』を読んだが、最初から速読的に出来る学生と、６週間位は読みもたどたどしい学生とになったが、徐々に読後に自分の考え、意見が言えるようになった。

『みんなの日本語Ⅱ』の31課までで終了した。

3）感想と反省

① 学生の日本語能力の差がそれほどなかったので、クラスとしてはやりやすかった。

② 受講者は全員中国人であったが、20代前半の学生と30代の学生、家族、40代の研究者とバラエティに富み、文を作ったり、会話をするなかで、年代としての考え方の違い、出身地による習慣の違いなどがでて、受講者共々楽しく興味深いものであった。

③ 授業開始時間前の雑談で、日本人が使っている言葉や日本の習慣、文化について質問し、積極的に吸収しようとしていた。ちょっとした雑談の中からも言葉を拾い、ノートしていく姿勢は素晴らしいと思った。

④ 『みんなの日本語Ⅱ』から、“会話ビデオ”を見るということで、受講者は楽しみにしていたが、ビデオの会話は“会話”であるのに、本を読んでいるようで、会話の速度が遅く、学生からも不自然との声があった。

⑤ 『日本語ジャーナル』の“聴いて、歌って、覚えよう”CDを使い、月日の言い方、助数詞、自動詞・他動詞などを練習したが、言葉をメロディに乗せて覚えるというより、単に聴いているだけになってしまい、効果的とはいえなかった。

⑥ 学生たちが日本語でレポートを書くということを考えると、初級の後半から作文を増やすべきだったのではないかと思う。（作文は１回）

◆平成16年度後期　上田地区　初中級　（阿部敏子）

期　間：10月～１月
受講者：９名（全員中国）
常時出席：５名
主教材：『日本語初中級―理解から発話へ』
副教材：『トピックによる日本語総合演習―中級前期』
『総合日本語中級前期』
『日本語中級読解』
・授業内容：
１．書き取り（前回の授業内容から、５～６文の短文を教師が読み上げ、書き取る形で進めた）
２．文法・会話（その回の中心となる文法項目を決め、それを中心に口頭練習と会話練習を行った）
３．読解
・感想：
初中級といっても、出席者のほとんどが初級レベルで、本来の初中級レベルは常時１～２名だけで、そこに時々中級レベルが混じってくるという状況であった。
そこで初級レベルでも理解しやすいように導入を工夫し、初級者でも語彙が理解できるようにフラッシュカードを多用した。また、全般に口まわりに問題のある学生が多かったので、口頭練習を中心に進めた。単純な練習から、自分の身近な話題について話せるところまでを目指した。
テープ教材による聞き取り練習は、学生のレベル差が大きかったため今回は見送り、それに代えて短文の「書き取り」を、毎回復習をかねて行った。
読解練習は学生の要望により急遽始めたのだが、教材の選択には苦しむことになった。当初用意した教材（中級）は難しすぎたため、その後は少し易しめのもの（初中級）に変えたが、今度は易しすぎて、初中級レベルの学生から不満が出た。学生で読みは得意なためか、会話力が初中級レベルでも読解は中級レベルを求めていることが分かり、いろいろ手持ちの教材で試したが、満足いくレベルの教材を見つけることができなかった。学期中は忙しく教材を探しに行く時間が取れなかったため、最終的には易しいものと難しいものを交互に読むという形を取った。
時々来る韓国の研究者を除いて全員中国の学生だったので、特に漢字の練習はしなかった。また、「書き取り」以外はほとんど書く作業をしなかったが、これはこの補講の目的が会話を中心とするコミュニケーション能力を養うことにあると理解していたためである。
今後は学生のレベル差に配慮しながら、まとまった内容について作文・口頭発表の機会を設け、さらに充実した授業を目指したい。

◆平成16年度前期　松本地区　初級・初中級　（村田明）
期　間：４月～７月
受講者：前期４名　後期３名
主教材：ビデオ教材『日本語　見る・聞く・話す』
前期松本地区日本語補講は初級、初中級クラスを週２回ずつ、初級がゼロスタート学習者、初中級がゼロスタート以外の全受講希望者を対象に実施した。
・初級
最初の２週間は主にひらがなカタカナの読み・書き・聞き取りの練習に費やした。各種絵カード、地図、写真等を使用して日常生活に必要な基本単語を紹介した。
構文練習とビデオ教材『日本語　見る・聞く・話す』の各章末の「わかりますか」を利用して聞き取りや会話練習を行った。構文練習の教材は主に東京外国語大学付属日本語学校教材開発研究協議会編集の『日本語Ｉ』を使ったが、それ以外にも各種日本語教材から適当な個所を選んで使用した。
受講生は中国からの研究生、大学院生、留学生の家族で合計４人いたが、最後まで続いたのは２人であった。小人数ということで、効率よく授業が実施できたと思う。構文練習・会話練習中心の授業であ

った。
・初中級
最初の数週間、英語で書かれた日本語文法の要約版で、日本語文法の基本の説明をした。その際、単文を使っての練習をすることによって、動詞・形容詞の活用形の確認作業をさせるようにした。
構文練習とビデオを使っての聞き取り・会話練習の授業進行方法は、基本的に初級と同じであるが、「日常会話に慣れる」という観点から、日常の話題を中心にできる限り多くの雑談をするようにした。
受講生は3人。

◆平成16年度後期　松本地区　初中級　（上條厚）
期　間：10月～2月
受講登録：4名（全員中国、男1（医）、女3（理））
常時出席：2名
主教材：『中日交流標準日本語』
・授業の反省等
受講者が中国人だけであったので、主教材として『中日交流標準日本語』を使った。練習などはこれだけでは不十分なので、適宜、他の教材を使った。
開講時は受講者が3名であった。その内2名は、日本語補講初中級の修了者、1名は日本語研修コースの修了者であった。日本語がある程度できる人たちであるので、『中日交流標準日本語』26課（2冊目の最初）から学習を始めた。既習事項の復習であった。この程度の内容は全員一応学習したはずであるが、定着していないことが多かった。予定としては『中日交流標準日本語』初級（50課ある）を早めに終わらせて、別の教材に進むつもりであった。皆忙しいためか、4週目には出席者が少なくなった。
5週目になって、来日したばかりの受講希望者があった。その人は『中日交流標準日本語』をある程度学習済みであったので、その人に関しては14課から学習することにした。それ以後、複式で授業を進める予定であったが、7週目からは、その来日したばかりの受講者のみが出席するという状況となった。その後、その状態が長く続いた。1人だけであったので、1課からの復習も同時並行で行った。授業時間の多くの部分をTPR（Total Physical Response）の方法で行った。30代の研究者であった。研究室の用事による欠席が1回あった以外は欠席がなく、一生懸命に学習した。
しばらくしてから、最初からの受講者1名（日本語補講初中級修了者、40代）が出席するようになったが、授業内容は来日したばかりの受講者に合わせたままとした。
2人ともよく学習した。修得に関しては年齢のせいもあり、十分と言い難い。
受講者全員の国籍が同じであったので、やりやすかった。

◆平成16年度前期　伊那地区　初級　（高石久美子・佐藤佳子）
期　間：4月～9月
受講者：9名（カナダ1、タイ1、中国1、バングラデシュ6）
主教材：『みんなの日本語　初級Ⅰ』
副教材：『みんなの日本語　翻訳文法解説（各国語）』
『みんなの日本語　初級Ⅰ　会話ビデオ』
『みんなの日本語　書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語　初級Ⅰ　絵教材』
『みんなの日本語　教え方　スーパーキット』
『楽しく話そう』
『クラス活動集101』
『写真パネルバンク』
『公文　ひらがな　カタカナ　カード集』

・授業内容：

① 専門のことば（森林政策、動物栄養学…）など、学生が必要とする日本語（特に語彙）をできるだけ取り入れていくように心がけた。

② 『写真パネルバンク』を使って、自然、季節、気象などの言葉を紹介した。

③ 「蚤白質」などの意味を尋ねるので、辞書の引き方を学習したが、五十音表が頭に入ってなくて時間がかかった。

④ 日本文化・日本事情の学習として、ひらがな・カタカナの書き順の学習を兼ねて、毛筆をやった。学生は興味を示したが時間オーバーした。作品は学習室に掲示した。

⑤ 学部は、毎年夏に交流会を持つ。平成16年度は7月7日であったので、七夕の由来を話し短冊に、願いごとを書いてつるし、会場に飾った。（初中級も）

⑥ 学会で他県へ行くので都道府県名や都市、その位置を学習した。

⑦ 「て形」の歌を《クレメンタイン》の節に合わせて歌った。また、《上を向いて歩こう》を練習して、交流会の時に歌った。（初中級も）

◆平成16年度前期　伊那地区　初中級　（高石久美子・佐藤佳子）

期　間：4月～9月

受講者：9名（ドイツ1、バングラデシュ1、ネパール1、モンゴル2、中国3、フィンランド1）

主教材：『みんなの日本語　初級II』
『毎日の聞き取り50日　下』

副教材：『語学留学生のための日本語II』
『みんなの日本語　初級I　初級で読めるトピック25』
『みんなの日本語　初級II　標準問磨集』
『みんなの日本語　初級II　会話ビデオ』
『みんなの日本語　初級I　漢字　英語版』
『みんなの日本語　初級I　漢字練習帳』
『ニュースからおぼえるカタカナ語350』
『聴解が弱いあなたに』
『漢字・語彙が弱いあなたに』
『ドリルとしてのゲーム教材50』
『クラス活動集131』

・授業内容：

① 敬語を使いこなせるようになって欲しいので、テキストの順番に関係なく早くから取り入れた。研究室で使ってほめられたと喜んでいた。

② 作文は「今、一番欲しいもの」という類などで書いた。もう少し書かせたかったが、クラスの中では時間がなかった。

③ 漢字は、メインテキストに沿って少し取り入れたが、これも時間がかかった。宿題にすればよかった。

・その他：

① 学生（1人）が妊娠したり、学生の奥さん（3人）が妊娠、出産したりで、クラスは赤ちゃんムード一色だった。他国で出産するのは不安も大きかったことと思う。

② 伊那の方で、中国の大学へ日本語を教えに行かれるという方が2人、5月から7月末まで、ずっと授業見学に来られた。学生ともなじんでクラスが活気づいた。

③ 指導教官に伴って、7月から院生が2人、他大学に移った。

◆平成16年度後期　伊那地区　初級　（高石久美子・山本もと子）

期　間：10月～２月
受講者：10名（カナダ１、タイ３、バングラデシュ６）
主教材：『みんなの日本語　初級Ⅰ』
副教材：『みんなの日本語　翻訳文法解説（各国語）』
『みんなの日本語　初級Ⅰ　会話ビデオ』
『みんなの日本語　書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語　初級Ⅰ　絵教材』
『みんなの日本語　教え方　スーパーキット』
『新文化初級Ⅰ』
『楽しく聞こう』
『毎日の聞き取り50日　上・下』
『音とイメージでたのしく覚える擬声語・擬態語』
『クラス活動集101』
『写真パネルバンク』
『ドリルとしてのゲーム教材50』

・授業内容：
挨拶、数字（時計・値段・助数詞）などの基本的な文法を学習し、日常生活に必要なコミュニケーションができるようにしている。

・感想と反省：
① 10月から佐藤Ｔに代わり、山本が引き継いだ。前期から継続している学生の中にバングラデシュからのゼロ学習者が１名加わったので、始めは数字や日付など復習を中心に行った。前期からの継続者も夏休み後でかなり忘れていたので、遅めのペースで進んだ。
② 今期の学生はニーズがなかったせいか、ひらがな・カタカナを覚えるのが遅く、最後までローマ字併記で行ったので大変だった。補講は希望する学生は誰でもいつからでも参加できる態勢になっているが、できれば「かな学習」は自宅学習で行うか、補講に参加する前に最低限「読み」だけでもできるようになってから参加して欲しいと思う。そういう訳で、主教材は『みんなの日本語』をベースに会話・聴解問題を中心に進めた。途中から『みんなの日本語　ローマ字版』が届いたので、それも活用した。
③ 『写真パネルバンク』やレアリアを使い、年中行事や祝日など日本文化についても学習した。文法では形容詞、動詞のグループ分け（て形、ない形、辞書形）を学習した。て形は何度か繰り返し学習したが、定着するのに時間がかかった。
⑤ 日頃のできごとなどをクラスでできるだけ話してもらった。実際には、学会や国際シンポジームに出席したこと、研究室間のソフトボールの試合、箕輪小学校との交流会、農学部のバス旅行のことなどを話した。
⑥ 出産が続いたので赤ちゃんに関することば（体重・身長など）を入れ、作文の題にもした。
⑦ 今期はタイとバングラデシュの学生が多く、みんな明るくおおらかな学生ばかりだったので、ゼロ学習者が入っても、助け合う良い雰囲気のクラスであった。

◆平成16年度後期　伊那地区　初中級　（高石久美子・山本もと子）
期　間：10月～２月
受講者：10名（バングラディッシュ１、韓国３、フィンランド１、モンゴル１、イギリス１、中国３）
主教材：『どんなときどう使う　日本語表現文型200　初中級』
副教材：『みんなの日本語　初級Ⅱ』
『みんなの日本語　初級Ⅱ　書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語　初級Ⅰ　漢字　英語飯』

『漢字・語彙に弱いあなたに』
『かんじだいすき』
『読解をはじめる人に』
『聴解に弱いあなたに』
『総合表記練習』
『ニュースからおぼえるカタカナ語350』
『合格できる日本語！　2級日本語能力試験対策』
『新基準対応　日本語総まとめ問題集』
『日本語ジャーナル』
『写真パネルバンク』

・授業内容：

能力試験を受ける学生には受験対策をし、それ以外の学生には円滑なコミュニケーションができるように会話を中心に学習している。

・感想と反省：

① 前期から引き続き受講した学生に加え、研修コースを修了した韓国の学生が3人参加したが、短期の学生のため、実験や論文の準備で忙しくなり、11月以降は休みがちだった。毎回のことだが、中級は研究や実験が忙しくなり、続けて出席できる学生が少ないのが残念である。

② 中級レベルになると、日本人の学生との会話をする機会が多くなるのか、実際の会話で使われた表現についての質問が多かった。韓国の学生たちは特に、学部生なので「です・ます形」ではなく、普通体の表現や若者言葉（「マジで？」など）を知りたがった。

③ 作文は、苦手で文法の練習問題ではよく解けていても、既習文型を使って作文を書かせると、助詞や表現上の間違いが多かった。

④ 研修コースを修了した韓国の学生が3名、日本語能力試験の2級を受験した。最初から2級は無理と思われ、また勉強する時間もなく不合格だった。他の学生が3名、1級を受験し、2名合格した。授業では2級の聴解問題をしたり、それぞれの級の過去問題をやったりした。また、忙しくて出席できない学生には自宅学習用にコピーを渡し、添削して返却するなど対応した。

⑤ クラスの雰囲気としては、レベルが違っても、とても仲が良く、楽しいクラスだった。もっと人数が増えてくれるといい。

・その他：

教材を購入してもらい、学習環境が整ってきた。

相談・指導業務

1．はじめに

年報第５号は、本来、2004年４月より2005年３月までの報告であるはずだが、相談・指導業務の報告だけは、年報第４号に、2003年９月30日までの報告しか記載しなかったため、今号では、2003年10月より2005年３月までの報告ということになる。（年報第４号は、従来の１年分の報告でなく2003年９月より2004年３月までの１年半の報告であったため、相談・指導業務は従来どおり１年分の報告をした。）

2．信州大学留学生センターの相談・指導業務の実際

信州大学は、５キャンパスに８学部という分散型キャンパスで構成されている。

○大学本部、および留学生センターや４学部のある松本市旭キャンパス

①留学生センター

教員それぞれが、週に一日、オフィスアワーを担当している。しかし、実際には、オフィスアワーだけでなく、随時相談に応じている。対象は、旭キャンパスの留学生にとどまらず、信州大学に在籍する全ての留学生およびその関係者である。

②人文学部：坂口和寛留学生専門教育担当教員による相談・指導業務。52名

③経済学部：梶浦真樹子留学生専門教育担当教員による相談・指導業務。62名

④理学部：留学生専門教育担当教員が配属されていない学部。14名

⑤医学部：牧かずみ留学生専門教育担当教員による相談・指導業務。47名

○それ以外の４キャンパス

前述の留学生センター教員による松本市旭キャンパス以外の４キャンパス訪問相談・指導業務は、今期より、村瀬教員だけが、従来通り主に保健室とタイアップしての相談・指導業務を行うことになった。

⑥教育学部：留学生専門教育担当教員が配属されていない学部。25名

⑦工学部：高野嘉寿彦留学生専門教育担当教員による相談・指導業務。96名

⑧農学部：留学生専門教育担当教員が配属されていない学部。59名

⑨繊維学部：鮑力民留学生専門教育担当教員による相談・指導業務。55名

＊人数は何れも平成16年５月１日現在の各学部の留学生数

○教育学部（長野市の西長野キャンパス）と多数の留学生が在籍する工学部（長野市の若里キャンパス）では、引き続き、ボランティアの日本語教師（英語教師でもある）北澤先生の尽力に負うところが大きい。氏は、連日、両キャンパスを交互に訪問し、終日、希望者に日本語指導を行い、必要ならば相談にも応じておられる。工学部の要請で英語のプログラムも引き続き行われている。

○また、各キャンパスでの保健師や補講担当の日本語教師の尽力に負うところが大きい。

保健師：留学生専門教育担当教員が配属されていない教育学部の児玉保健師、同じく農学部の武田弘子保健師。（他に工学部の徳原さえ美保健師、繊維学部の西沢理恵子保健師。なお、児玉保健師、西沢保健師は、前任者の退職に伴い、'04年４月１日より新たに着任した。）

補講担当の日本語教師：農学部の高石久美子氏、山本もと子氏。長野（工学部・教育学部合同）の荻久保千秋氏、繊維学部の井出礼子氏、阿部敏子氏。松本キャンパスの村田満見子氏。

○留学生課及び各学部の留学生担当の事務職員は、常に留学生と接する立場にある。

・本部松本旭キャンパス
留学生課：藤本哲生留学生係長、鍋嶋真一留学生係員、古平克彦留学生センター係長
・遠隔地キャンパス
教育学部：鈴木善文学務係長
工学部：小島芳忠専門職員
農学部：北原一夫専門職員
繊維学部：小野英二専門職員

3．相談指導の概況

○相談・指導の件数

留学生センターの教員、非常勤講師および謝金講師が、2003年10月～2005年３月の間に扱った相談・指導件数を以下に示す。

項目	件数		
	'03年10月～'04年３月	'04年４月～'04年９月	'04年10月～'05年３月
a．修学関係	115	95	126
b．学内諸手続き	14	27	25
c．来日・滞在	5	17	3
d．経済問題	21	55	59
e．宿舎探し	53	43	52
f．人間関係	84	97	97
g．家庭	5	15	15
h．健康・医療	86	125	161
i．交流	90	91	135
j．事故・事件	2	51	37
k．その他	31	31	15

＊従来、10月より翌年９月までの１年間分の相談件数をカウントしていたが、今回の報告は2003年10月より2005年３月までの１年半の期間であるため、2003年10月～2004年３月、2004年４月～2004年９月、2004年10月～2005年３月までの、半年間毎に相談件数をカウントした。

＊注意点：留学生課の対応分以外の相談・指導件数の概数である。件数の数え方、および、内容の解釈が、教員（講師）により若干異なる。また、従来、'k．その他' に含めていたものを、ある程度 'i．交流' に含めた。

＊村瀬は、主として相談業務を担当しているが、研修コースの日本語の授業も２コマ分持っている。ちょうど、件数から見れば、村瀬が、日本語教育を担当協力しているのと同様な比率で、日本語教員（非常勤講師、謝金講師を含む）が、相談業務に関わっている。

＊年度毎に相談件数報告を依頼しているが、教員により、報告相談件数に差がある。やはり、相談しやすい教員とそうでない教員がいるようである。

○相談・指導の内容

相談内容の分類方法はいろいろあろうが、ここでは、一応、以下のように分類した。

a．修学関係（勉学／日本語学習／学位／就職などの進路／その他）
b．学内諸手続き（学費減免／奨学金申請／その他）
c．来日・滞在（入国／在留／その他）

d．経済問題（奨学金／アルバイト／学費／生活費／その他）
e．宿舎探し（学寮／民間寮／アパート／ホームステイ／入居保証／その他）
f．人間関係（研究室留学生／研究室日本人学生／研究室教官／事務／アルバイト先／異性／親族／家主／近隣／その他）
g．家庭（夫婦／家事／育児／教育／その他）
h．健康・医療（体の不調／医療機関への受診／国保／留学生医療補助／入退院／その他）
i．交流（チューター／交流／イベント等／ボランティア／雑談など親しい関わり／その他）
j．事故・事件（交通事故／遺失／その他）
k．その他

4．第一回異文化交流指導研究コンソーシアム・シンポジウム『大学経営と国際交流』開催

—2003年12月16日　信州大学において—

講演1「国立大学法人化後の大学経営と国際交流」
慶應義塾大学総合政策学部教授　孫福　弘
講演2「留学生交流を考える～派遣留学について」
名古屋大学留学生センター教授　三宅政子
分科会
講演＆ワークショップ「国際交流と異文化コミュニケーション」
桜美林大学文学部教授　荒木晶子

出席者一覧（職名：2003年12月16日開催当時）

群馬県　松元　宏行（群馬大学留学生センター教授）
埼玉県　山本　一男（埼玉大学留学生センター教授）
　　須永　博夫（埼玉大学専門職員）
山梨県　小泉　　均（山梨大学留学生センター助教授）
　　古守　和子（山梨大学留学生係長）
静岡県　原澤伊都夫（静岡大学留学生センター教授）
愛知県　伴　　紀子（南山大学人文学部教授）
岐阜県　太田　孝子（岐阜大学留学生センター教授）
富山県　出原　節子（富山大学留学生センター助教授／異文化交流指導研究コンソーシアム事務局）
新潟県　宮田　春夫（新潟大学留学生センター教授）
　　中川　利雄（新潟大学専門職員）
長野県　村瀬さな子（信州大学留学生センター長・教授／異文化交流指導研究コンソーシアム代表幹事）

第1回異文化交流指導研究コンソーシアム・シンポジウム『大学経営と国際交流』が、信州大学留学生センターと異文化交流指導研究コンソーシアムの主催で、2003年12月16日に信州大学において開催された。

コンソーシアムは、中部圏大学の留学生センター教員を中心として、2003年の3月信州大学で開催された『信州大学と隣接8県の留学生センター相談指導担当教官懇談会』が母体となり設立されたものである。

独立行政法人化を迎え、国立大学にはますます地域に密着した「知」の創造が求められているが、ここで言う「地域」とは、単に大学周辺ということではなく大学を育む文化圏である。大学を育んでいる

複数の文化圏が交流することで、より質の高い国際交流が実現できると考えられる。中部圏には伝統ある中堅大学が揃っており、これら中部圏の大学が共同で国際交流を目指せば、全国的に注目されるようなプロジェクトも実現可能である。

このコンソーシアムの旗揚げに企画した記念講演では、国際交流推進のために大学が何をなすべきかという課題について、様々な角度（大学経営、日本人学生の海外派遣、異文化コミュニケーション能力の向上）から検証した。

慶応義塾大学総合政策学部の孫福弘教授には、「国立大学法人化後の大学経営と国際交流」の講演をいただいた。孫福教授は、慶応義塾大卒後、同大職員となり、大学国際センター事務長、湘南藤沢キャンパス事務長などを経て、1997年から理事・塾監局長（2001年6月まで）であり、大学行政管理学会（1997年設立）の初代会長でもあった。半世紀近くにおよぶ大学生活、在職期間を通じて日本の大学を知り尽くした、孫福教授ならではの大学経営論、大学論、大学改革論は、日本の大学ばかりか、日本国の舵取りへの示唆にも富むほどの力強いメッセージであった。

日本の国際・留学関係の重鎮、名古屋大学留学生センターの三宅教授の講演「留学生交流を考える～派遣留学について」は、学生への有益なメッセージとなった。

桜美林大学文学部の荒木晶子教授には、「国際交流と異文化コミュニケーション」の興味深いワークショップを担当いただいた。

＊記念講演をいただいた慶應義塾大学総合政策学部教授の孫福先生は、2004年6月に急逝された。同年4月に横浜市立大学改革推進本部最高経営責任者（理事長予定者）に就任されたばかりであった。急逝されたことは、先生を知る者にとって大変なショックであり、日本の大学にとっての損失は計り知れない。独法化1年が過ぎ、どの国立大学もいよいよ大学経営の真価が問われる時代に入って、日本の大学の行政管理で一家言のあった孫福先生の熱いメッセージは、今日ますます輝きを増している。

＊孫福先生を師と仰ぎ、このシンポジウムの講演者として孫福先生を推薦していただいた、名古屋大学留学生センターの三宅教授も、2004年6月に名古屋大学を去られ、今はインドネシアに活動の場を移しておられる。

5．国立大学法人留学生センター等留学生指導部門研修会『今後の指導部門業務のあり方』開催

—2005年3月4日　信州大学において—

コメンテーター

廣瀬　幸夫（東京工業大学留学生センター教授・国際交流室長補佐）

話題提供および出席者

相澤　敬久（茨城大学留学生センター長）

「茨城大学の取り組みと現況」

阿波村　稔（新潟大学留学生センター長）

「今後のセンターの役割：留学生活用、フォローアップから新しい国際交流へ」

村瀬さな子（信州大学留学生センター長）

「人間関係に関するトラブルへの関与：これまでも、今後も相談指導業務が関わるべき分野」

出原　節子（富山大学留学生センター助教授）

「現体制ではできないものとタッチすべきでない分野」

小泉　　均（山梨大学留学生センター助教授）

安　　龍洙（茨城大学留学生センター助教授）

小松　由美（東京外国語大学留学生センター講師）

岩津　文夫（名古屋工業大学留学生センター講師）

福田　尚登（南山大学国際教育センター副センター長）

〈同研修会報告書より〉

平成16年度より国立大学は「国立大学法人」となり、様々な変化の中、留学生センター等もその役割、業務のあり方などを模索している段階です。そこで、この研修会では、今後の留学生支援の方法及び指導部門の業務のあり方を考えてみるべく企画されました。各大学から話題を提供していただき、コメンテーターを交えての忌憚ない意見交換が行われました。

なお、この研修会は、信州大学留学生センターと、2003年に結成された異文化交流指導研究コンソーシアムの主催で行われました。（巻頭言より）

「国立大学法人留学生センター等留学生指導部門研修会」後の所感

信州大学留学生センター長　村瀬さな子

独法化を前に各大学に留学生センターが乱造された感は否めませんが、古いところでも高々十数年余の留学生センターの役割は、大学の中で一体どういう位置づけだったのでしょうか。残念ながら、20年前の首相のかけ声「留学生受入10万人計画」が、留学生センターの設置理由の全てとまではいかないにしても、非常に大きな要因であったことは確かです。それが証拠に、10万人という数合わせ？が達成された今、文部科学省には留学生課がなくなってしまいました。

留学生センターの存在は、少なくとも内外の関心を留学生に向けさせ、留学生に対するケアや教育を充実することに寄与したはずですが、上述したように、大学自身が留学生受け入れのメリット、デメリットを真剣に検討して設置したものではなかっただけに、独法化後、改めて、各大学の身の丈に合った留学生受入、サービスの維持を図らねばならなくなりました。留学生数が何千人という総合大学は別格として、一般の地方大学は、大学の理念に立ち返り、国際戦略も含めた大学の存在意義を検討しなければならない時期にやっと到達したとも言えます。

人口の割に大学数が多すぎる日本の多くの大学では、その講義内容が最高学府たるレベルに達しているのでしょうか。また、英語が実質的に世界共通語である現在、やはり、英語でも講義を行えることが、大学人としての最低のレベルだと思われます。結論を急ぎますと、遣隋使・遣唐使を引き合いに出すまでもなく、結局、すばらしい学問を究めることが大学の使命であり、そうすれば、自ずと国内外から学生が集まってくるのではないでしょうか。

ところで、他の企業同様、法人化後の大学は先ず無駄を省くことから見直されます。教職員はいくつかの業務を兼務することを余儀なくされ、給料に見合うだけの働きをしていない人はクビになるでしょう。留学生センターが、これまでに有能な人材を採用してきたのであれば、国際や留学その他関連の教育・研究分野を兼務しても実力を十分発揮し得るはずです。

留学生センターだけが槍玉に挙げられるものではありませんが、大学存亡の危機の渦中に自分達がいることを自覚し得てこそ、また、自分が大学のその職にあるから自分はその職に相応しいのではなく、自分が本来の大学人として、その職に相応しいほどの研鑽を積んできたかどうかを自覚してこそ、数合わせで乱造された職務でなく本来の大学人としての職務に相応しい教員と言えるように思います。

ただし、民間企業並みのノルマを課せられるとなれば、他の条件も民間並みに良くなるのでなければ、窮屈を嫌う多くの大学人としては、上層部が意図するように、辞めてほしい人が辞めていくのではなく、有能な人から大学を去ってしまうかもしれません。

活　動　記　録

◆全学留学生研修旅行

平成16年度の全学留学生研修旅行は2回行われた。いずれも日本人学生を交えた国際交流旅行として行った。

○平成16年9月26日～27日。26日、乗鞍青年の家において交流会を行い、27日、飛騨高山市内を見学した。参加学生数、64名。

○平成17年2月14日～15日。京都を見学した。参加学生数、81名

◆スピーチ発表会

○平成16年度　信州大学留学生センター日本語研修留学生　スピーチ発表会 in 若里キャンパス

平成16年11月7日、工学部において行われた。工学部学園祭「光芒祭」に合わせて、開催された。発表者と発表題目は次のとおり。

金　恩敬「韓日の飲酒文化」（韓国・工学部）
呉　　嚇「生きがい」（韓国・工学部）
李　承勳「韓国の特別目的高校の生活」（韓国・工学部）
ド・ミー・ヒエン「長野県における農業従事者と国民年金制度」（ベトナム・経済学部）
ペギー・シュッツェ「ライプツィヒの歴史の旅」（ドイツ・人文学部）
許　庭銀「日本人の韓国観」（韓国・人文学部）
李　ルダ「日本と韓国の鬼」（韓国・人文学部）

当日の発表の中から、李　ルダ「日本と韓国の鬼」の一部分を掲載する。（『信州大学留学生センターNEWS』第9号からの転載）

日本と韓国の鬼

李　ルダ

わたしは韓国から来たカトリック大学の交換留学生です。日本語・日本文化を専攻しています。わたしの発表の主題は、「日本と韓国の鬼」です。

まず研究の動機から話します。鬼というのは虚構的、霊的なものです。目に見えないものであり、科学の世である今の時代は、鬼の話は日常的な範疇とは別のものになりました。鬼が出る昔話とか神話は、長い歴史を持つ民族がゆっくり時間をかけて作った、その民族だけの思想的なものであります。ある民族の想像、考え方、信仰、哲学、思想などが集まって形状化されたものですので、各民族の文化を大きく反映しています。つまり、各国の昔話、鬼の話を調べたら、その民族の文化を知ることができるということです。そういうわけでわたしは、日本と韓国の鬼を調べ、比べることにしました。

日本人は鬼と言われたら、物語に出て来る2つの角の怖い顔の人鬼系の鬼を思い浮かべます。それが昔の日本人の庶民大衆に一番身近な鬼だと考えられます。韓国のトケビも同じように、一番大衆的な鬼であり、それらが各国の文化をよりよく反映していると考えました。

それで「こぶとりじいさん」に見られる日本の鬼と韓国のトケビを比べてみました。その前に物語りの中の韓国のトケビの特徴について少し説明します。まずその姿です。韓国のトケビは2つの角で巨人というところは日本の鬼と同じですが、韓国のトケビは肌の色は人間と同じです。服は日本と同じように皮で作った服や、韓国の伝統服である韓服を着ています。毛むくじゃらというところと怖い顔も同じですが、韓国のトケビは嫌な臭いがします。それに海岸の町に伝えられてきた昔話の中のトケビは、金

髪で青い目の、欧米人のような姿をしています。

では日本の鬼と韓国のトケビを、実際の昔話「こぶとりじいさん」で比較してみます。まず同じ点について考えます。最初は両国とも歌舞の文化を大事にするということが挙げられます。例えば鬼と会ったきっかけは、日本は、じいさんが寝ている時、鬼が来て遊びます。その騒ぎで起きたじいさんが遊ぶ鬼たちを見て、自分も楽しくなって一緒に踊ります。韓国は、真夜中の空き家で怖くなったじいさんが、歌を歌います。この歌を聞いてトケビが来ます。このことから、両国の鬼も人も酒を飲んだり遊んだりすることが好きで、これは日本も韓国も祭りや休みの日にみんな集まってよく遊んだ文化が反映していると思いました。また両国とも、正直なじいさんが結局得をするということで終わります。つまり正直がいいという価値観が同じです。そしてそれを引き出す役割として鬼を登場させることも同じです。

次に違う点について考えます。まず両国の鬼に対する心理的距離に違いがあります。日本では山の木の下や洞穴で鬼に会いますが、韓国のこぶとりじいさんは深い山の中にある空き屋で会います。このことから、日本の鬼は遠い場所に住み、人と親しくなることが難しいということが分かります。韓国のトケビも離れている場所に住んでいますが、家のように人と関連がある所に住んでいます。つまり日本の鬼は異世界のものとして扱われています。

次の違う点は、人に対する態度です。日本の鬼は、こぶがいいじいさんの大切な物だと考え、こぶを取って「明日も来い」と言い、じいさんを脅します。でも韓国のトケビはこぶが歌が出る袋だと考え、いいじいさんからこぶを買います。つまり韓国の鬼は取引をします。日本は意地悪じいさんにこぶを付けることで話が終わりますけど、韓国は裏切られたことが分かると、意地悪じいさんを激しく打って丸裸にします。これは韓国のトケビの話の中では軽い罰で、トケビが出て来る他の話では、トケビは自分をだました人の腰を蛇のように伸ばして、町に帰れないようにしたり、ひどい復讐をします。ここで韓国のトケビは人を信じていますが、一度裏切られたら、絶対その人を許さない、つまり韓国人は日本より嘘や裏切ることを悪く見ること、さらに裏切った者には復讐するという文化・価値観が見られます。

このように２つの国の鬼とトケビは、同じ面もあり、違う面もあります。近くにある２つの国が、長い歴史の中でお互い影響をしたり受けたりして、その上で自分の国の価値観を反映した鬼とトケビを作ったことは面白いと思いました。鬼が想像上のものであるからこそ、より強く価値観や文化を反映していると考えられるのです。

これから２つの国の鬼とトケビがどのように変化するか知りたいですが、それはこれからの２つの国の問題で、これからもお互いにいい影響を受けたらいいなと思います。

◆研修会

○国立大学法人留学生センター等留学生指導部門研修会　『今後の指導業務部門のあり方』

平成17年３月４日、留学生センターにおいて開催された。Ｐ.28所載。

交　流　事　業

◆平成16年度長野県留学生交流推進協議会総会

同時開催

◆長野県留学生交流推進協議会公開シンポジウム

―留学生・外国人住民と、活かし活かされる関係を作る―

平成16年11月７日、旭キャンパスで開かれた。

留学生交流推進協議会総会において、同会から、円福友の会（信州・新潟の留学生に本を送る会）会長、藤本幸邦氏に感謝状が贈られた。円福友の会は長年にわたって、本学および長野県内の留学生、最近では新潟大学の留学生にも本を贈っている。

長野県留学生交流推進協議会公開シンポジウムの講演者等は次のとおり。

基調講演

杉澤　径子　　武蔵野市国際交流協会プログラムコーディネータ

パネル討論パネリスト

杉澤　径子	基調講演者
小出　博治	㈳長野国際親善クラブ会長
佐々木　涇	長野大学国際交流センター長・教授
掛野アンナマリア	松本市母国語生活相談員
ワーユー・プラユディ・ヌグロホ	信州大学経済学部４年生
付　　忠杰	信州大学人文学部２年生

◆留学生センター長から感謝状

平成17年２月11日、長年ボランティアで留学生に日本舞踊を教えてきた、日本舞踊岩井流　岩井粂正師範（田内千鶴子――本名）に、留学生センター長が感謝状を贈った。同氏は20年以上の永きにわたって、本学留学生にボランティアで日本舞踊を教えてきた。

◆学生参加の交流行事

平成17年度に行われ、学生が参加した行事は次のとおり。

期日	名　　称	主　催　団　体	参加人数
4月24日	市内探訪バスツアー	松本留学生応援ファミリーの会	35名
5月16日	いけばなインターナショナル信濃支部さわやか例会　招待	いけばなインターナショナル信濃支部	7名
6月27日	留学生歓迎ふれあいパーティー	松本留学生応援ファミリーの会	90名
7月4日	野外いけばなデモンストレーション招待	いけばなインターナショナル信濃支部	28名
7月25日～26日	日中友好キャンプ	長野県日中友好協会	34名
8月7日	第30回松本ボンボン　参加	松本留学生応援ファミリーの会	43名
8月28日	第10回国際交流会	松川村社会福祉協議会	4名
11月6日	紅葉ハイキング	松本留学生応援ファミリーの会	11名
11月14日	第16回留学生と青少年のつどい	梓川村	27名
11月26日	第15回留学生日本語スピーチコンテスト	松本東ロータリークラブ	発表者8名 参加者多数
12月12日	第6回アジア賞授賞式	松本ワイズメンズクラブ	受賞者12名 参加者多数
12月19日	クリスマス恒例？　多国籍料理体験！　パーティー	松本留学生応援ファミリーの会	36名
1月17日	新年顔合わせ　招待	いけばなインターナショナル信濃支部	14名
2月2日	LET'S SKI	松本留学生応援ファミリーの会	22名
2月19日～20日	日中スキー交流会	長野県日中友好協会	26名
3月7日	留学生国際KARAOKEパーティー	松本留学生応援ファミリーの会	20名

資　　料

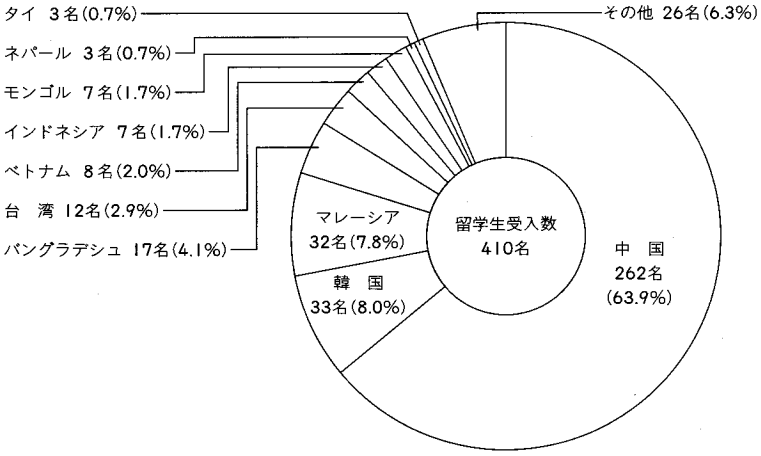
■本学における外国人留学生数

平成16年度

平成16．5．1現在

区分			国費			政府			日韓			交換留学生			私費			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部学生	人文学部														9	18	27	9	18	27
	教育学部															1	1		1	1
	経済学部														29	30	59	29	30	59
	理学部														1	3	4	1	3	4
	医学部														1	3	4	1	3	4
	工学部		1		1	9	4	13	5	2	7				28	9	37	43	15	58
	農学部								1		1				5	8	13	6	8	14
	繊維学部					2		2	1		1				8	5	13	11	5	16
	計		1		1	11	4	15	7	2	9				81	77	158	100	83	183
大学院学生	人文科学研究科			1	1										1	5	6	1	6	7
	教育学研究科			2	2										4	5	9	4	7	11
	経済・社会政策科学研究科														1	1	2	1	1	2
	医学研究科	修士課程医科学専攻													1		1	1		1
		博士課程		3	3										16	19	35	16	22	38
	工学系研究科	博士前期課程	3	2	5										28	16	44	31	18	49
		博士後期課程	7	6	13	1		1							12	7	19	20	13	33
	農学研究科		2		2										5	5	10	7	5	12
	岐阜大連合農学研究科（博士課程）		5	3	8										12	6	18	17	9	26
	計		17	17	34	1		1							80	64	144	98	81	179
研究生			3	5	8							5	2	7	8	13	21	16	20	36
聴講生、科目等履修生												2	7	9		2	2	2	9	11
専攻科学生	医療技術短期大学部専攻科															1	1		1	1
合計			21	22	43	12	4	16	7	2	9	7	9	16	169	157	326	216	194	410

■国別受入数



その他の国　26名

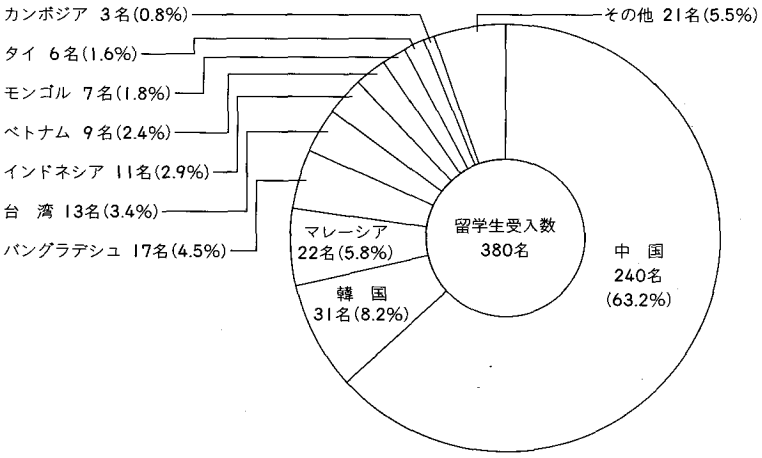
カンボジア 2名	エジプト 1名	ミャンマー 1名
フィンランド 2名	フランス 1名	ポルトガル 1名
ドイツ 2名	ガーナ 1名	スリランカ 1名
ラオス 2名	インド 1名	スペイン 1名
ルーマニア 2名	イラン 1名	英国 1名
ロシア 2名	カザフスタン 1名	米国 1名
ベラルーシ 1名	メキシコ 1名	

平成17年度

平成17．5．1現在

区分			国費			政府			日韓			交換留学生			私費			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部学生	人文学部														12	19	31	12	19	31
	教育学部																			
	経済学部			1	1										27	28	55	27	29	56
	理学部														2	4	6	2	4	6
	医学部														1	2	3	1	2	3
	工学部					5	4	9	5	2	7				26	16	42	36	22	58
	農学部								1		1				5	9	14	6	9	15
	繊維学部					2		2	1		1				6	5	11	9	5	14
	計			1	1	7	4	11	7	2	9				79	83	162	93	90	183
大学院学生	人文科学研究科			1	1											6	6		7	7
	教育学研究科			2	2										4	7	11	4	9	13
	経済・社会政策科学研究科														1	1	2	1	1	2
	工学系研究科	博士前期課程	1		1										16	8	24	17	8	25
		修士課程	1		1										14	2	16	15	2	17
		博士後期課程	7	3	10										9	6	15	16	9	25
	農学研究科		2		2										5	4	9	7	4	11
	医学研究科	修士課程医科学専攻													2		2	2		2
		博士課程	1	3	4										8	14	22	9	17	26
	総合工学系研究科		7	1	8										3	4	7	10	5	15
	岐阜大連合農学研究科（博士課程）		4	4	8										9	4	13	13	8	21
	計		23	14	37										71	56	127	94	70	164
研究生			2	3	5							1		1	7	8	15	10	11	21
聴講生、科目等履修生												3	9	12				3	9	12
合計			25	18	43	7	4	11	7	2	9	4	9	13	157	147	304	200	180	380

■国別受入数



その他の国　21名

フィンランド 2名	ガーナ 1名
ドイツ 2名	インド 1名
ラオス 2名	メキシコ 1名
ミャンマー 2名	パラグアイ 1名
ネパール 2名	ルーマニア 1名
ロシア 2名	スリランカ 1名
米国 2名	英国 1名

■部局別年度別推移

各年度５月１日現在

	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部	繊維学部	教養部 留学生センター	計
36						2		1		3
37						3		1		4
38						2		1		3
39						2		1		3
40										0
41		1								1
42		1								1
43		1					1			2
44	2									2
45	2	1								3
46		1								1
47		1								1
48		2								2
49					1	1				2
50		1						2		3
51	1	1				1	1	2		6
52		1				1				2
53		2								2
54		1			2					3
55			1	1	5	2		4		13
56		1	1	1	5	3		6		17
57	1	2	1	2	7	1	1	11		26
58			3	2	9	4	1	16		35
59		1	2		8	6	3	19		39
60	2	1	4	1	9	9	5	15		46
61	4		10	3	14	15	4	12		62
62	9	3	23	2	12	17	6	13		85
63	13	4	36	2	15	15	9	10		104
1	18	3	47	2	16	15	10	12		123
2	18	6	53	4	20	26	9	11		147
3	23	11	55	4	20	41	15	14		183
4	25	16	56	8	31	48	22	15	1	222
5	26	24	64	11	41	38	20	42	3	269
6	31	24	68	12	45	41	18	39	2	280
7	39	21	69	15	46	53	30	26		299
8	41	22	73	11	44	58	31	45		325
9	44	16	73	7	36	54	33	35		298
10	37	13	77	9	33	52	33	36		290
11	30	12	86	9	31	58	30	37		293
12	19	15	84	13	44	73	28	39	7	322
13	24	18	80	10	50	82	32	37	3	336
14	30	14	83	10	50	86	42	45	1	361
15	41	16	75	12	54	101	53	53	2	407
16	52	25	62	14	47	96	59	55		410
17	52	18	60	15	32	100	58	45		380

■国別年度別推移

岐阜大学大学院連合農学研究科を除く。各年度５月１日現在

	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
韓国										1	1	3	1	1	1	2	3	7	7	11	13	14	18	19	22	18	17	24	22	28	26	34	32	31	30
中国				1						6	8	13	20	23	23	25	34	35	45	54	70	92	118	133	140	163	146	140	151	183	197	229	246	249	231
台湾									1	2	2	1	3	4	6	11	16	21	26	23	23	23	19	18	17	23	28	29	26	20	18	14	12	12	13
香港																1	2	3	3	3	2	1	1		1	1	2	2	2	2	1	1			
マカオ																				1	1	1	1	1	1	1	1								
モンゴル											2	2	4	6	4	4	2				1	1	1	1	3	2	2	4	4	3	5	3	5	7	7
ベトナム																					1	2	2	2	3	3	5	6	6	8	6	6	10	8	9
ラオス																								1	1	1	1				1	1	2	2	2
カンボジア																											1	1	1	1	3	3	2	1	2
タイ									1	1	1						2	2	2	3	3	4	6	4	3	2		1	2	2	5	2	4	2	3
ミャンマー					1	1															2	2	3	5	4	3	2	3	2	2	1	1	2	1	2
フィリピン																		1	1	1	1					1									
マレーシア													1	2	7	8	14	19	23	30	38	44	48	52	53	52	42	36	32	29	29	31	35	32	22
シンガポール																	1	1	1	1			1	1	1	1									
インドネシア										1	1	2	2			1	1	4	3	2	5	9	10	9	11	8	4	2	2	1	8	5	6	7	11
ネパール												1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	2	2	4	3	4	3	3	4	4	2	2	3	2
バングラデシュ																		2	3	5	6	11	12	12	13	13	14	13	13	14	12	13	13	11	13
インド																1	1				1	1	3	1	2	5	5	5	5	3	2	1	1	1	1
パキスタン																										2	2	2	2						
スリランカ																	1	1		1	1	1	1		2	3	1	1					1	1	1
カザフスタン																															1	1	1	1	
イラン																				1	1	2	4	4	3	2	2	2	1	3	2	1	2	1	
トルコ																										1									
イスラエル																											1	1							
バーレーン																														1					
サウジアラビア																		1	1	1	1						1	1	1	1					
エジプト											1	1	1								1	1			1	1	3	4	2	2	2	2	2	1	
モロッコ																									1										
マダガスカル																							1	1	1	1									
ケニア																										1	1	1	1	1	1				
タンザニア																1	1						1	1	1	1	1	1	1						
ザンビア																1																			
ナイジェリア																					1	1	1												
ガーナ																						1	1	1	2	2	1	1	1					1	1
ロシア																											1							2	2
ベラルーシ																														1	1	1	1	1	
フィンランド																																		1	1
ポーランド																1				1	1								1						
チェコ																		1										1		1		1			
ハンガリー																											2	1		1	1	1			
ルーマニア																								1	1			2	2	1	1	1	2	2	1
ブルガリア						1																				1	1								
ユーゴスラビア																1				1															
デンマーク																							1	1											
オランダ																										1	1	1	1	2					
ドイツ																		1	2	1	1	1	1					1	1	1	2	1	1	1	1
オーストリア														1																					
英国															1	1							1			1								1	1
フランス						1														1	1	1	1	1	1	2	1		1		1	1	3	1	
スペイン																													1	1	1	1	1	1	
ポルトガル																																1	1	1	
アイスランド																						1	1	1	1										
オーストラリア																	1						1												
カナダ																								1	1	1	1								
米国																1				2	2	2	3	2	1		2		1	1	1	1	1		1
メキシコ																							1	1	1	1					1	1	1	1	1
エクアドル																												1	1	1	1	1			
ペルー																	1	1																	
ブラジル	1	1	2	1	2	3	2	2	1	2	1	2	1	1	1	2	4	3	6	3	5	5	4	4	3	2	2	2	4	4	1				
ボリビア												1	1	1	1																				
パラグアイ																																			1
アルゼンチン																															1				
チリ																							1												
合計	1	1	2	2	3	6	2	2	3	13	17	26	35	40	45	62	85	104	123	147	183	222	269	280	299	325	298	290	293	322	336	361	389	384	359

学術交流協定締結大学一覧（大学）

（平成17年６月21日現在）

	締結大学	国名	締結年月日	締結、覚書等の状況	交流母体学部
1	西南農業大学 45 CA3-1(212)	中国	昭和63年３月23日 平成７年７月20日 平成７年10月１日	協定締結 協定の変更 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（５名以内）	繊維学部
2	江原大学校 45 CA1-1(210)	韓国	平成６年３月24日 平成７年10月１日 平成７年10月１日	理学部間交流協定締結 協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（３名以内）	理学部
3	ユタ大学 45 CA 5-1(321)	米国	平成８年３月27日 平成８年３月27日 平成12年12月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（１名） 覚書更新	教育学部
4	同済大学 45 CA7-1(346)	中国	平成８年５月１日 平成８年５月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
5	インド工科大学マドラス校 45 CA122-1(703)	インド	平成８年８月28日 平成９年12月５日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
6	河北農業大学 45 CA8-1(347)	中国	平成８年９月１日 平成８年９月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
7	河北医科大学 45 CA 6-1(345)	中国	昭和61年11月19日 平成８年９月20日 平成８年９月20日	医学部間交流協定締結 協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（５名以内）	医学部
8	チェンマイ大学 45 CA10-1(502)	タイ	平成８年12月24日 平成８年12月24日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
9	蘭州大学 45 CA11-1(632)	中国	平成９年９月８日 平成９年９月８日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
10	蘇州大学 45 CA13-1(704)	中国	平成９年11月４日 平成９年11月４日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（５名以内）	繊維学部
11	太原理工大学 45 CA14-1(765)	中国	平成10年４月15日 平成10年４月15日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
12	ラ・ロッシェル大学 45 CA15-1(826)	フランス	平成10年９月２日 平成10年９月２日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
13	カーティン工科大学	オーストラリア	平成11年４月20日	協定締結 学生交流　（授業料不徴収等）（２名以内）	医療技術短期大学部
14	オーストラリア南極研究所	オーストラリア	平成11年８月６日	協定締結	理学部
15	ビアリストーク大学 45 CA17-1(1040)	ポーランド	平成11年９月１日 平成11年９月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
16	マンチェスター理工科大学	英国	平成11年９月10日	協定締結	繊維学部
17	東華大学	中国	平成11年10月４日	協定締結	繊維学部
18	ブリタハラパン大学	インドネシア	平成12年１月31日 平成12年１月31日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
19	カセサート大学	タイ	平成12年３月16日 平成12年３月16日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
20	河南農業大学	中国	平成12年３月23日 平成12年３月23日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
21	尚志大学校	韓国	平成12年11月１日 平成12年11月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
22	シレジア大学	ポーランド	平成12年12月１日 平成12年12月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
23	中国地質大学	中国	平成13年２月15日 平成13年２月15日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
24	ケンブリッジ学 セント・エドモンド・コレッジ	英国	平成13年８月21日	協定締結	人文学部

25	モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成13年８月27日	協定締結	繊維学部
26	光云大学	韓　国	平成13年９月27日 平成13年９月27日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	人文学部
27	カトリック大学	韓　国	平成13年10月29日 平成13年10月29日 平成13年12月25日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（５名以内） 覚書変更（５名以内）	人文学部
28	カトリック大学ルーバン	ベルギー	平成13年11月６日 平成13年11月６日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２以内）	人文学部
29	北京工業大学	中　国	平成14年６月17日 平成14年６月17日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部
30	カムチャッカ国立教育大学	ロシア	平成14年11月21日 平成14年11月21日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	人文学部
31	ライプツィヒ大学	ドイツ	平成14年12月17日 平成14年12月17日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（３名以内）	人文学部
32	ウダヤナ大学	インドネシア	平成16年４月22日 平成16年４月22日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	繊維学部
33	ビアリストク工科大学	ポーランド	平成16年９月17日 平成16年９月17日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	工学部

大学間学術交流締結機関　33（授業料不徴収大学　27）

学術交流協定締結大学一覧（学部）

（平成17年６月21日現在）

	締結大学	国名	締結年月日	締結、覚書等の状況	交流母体学部
1	チュラロンコン大学医学部	タイ	平成２年９月17日	協定締結	医学部
2	ノースカロライナ州立大学繊維学部 45 CB9-1(348)	米国	平成８年６月４日 平成８年６月４日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	繊維学部
3	マンハイム大学 17 BB33-1(927)	ドイツ	平成11年３月11日 平成11年３月11日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（３名以内）	人文学部
4	香港理工大学応用科学及び紡織学部	中国	平成11年10月４日	協定締結	繊維学部
5	嶺南大学工学部	韓国	平成12年９月７日	協定締結	繊維学部
6	漢陽大学工学部	韓国	平成12年９月８日	協定締結	繊維学部
7	シナコリンウィロード大学理学部	タイ	平成12年11月20日	協定締結 学生交流　（授業料不徴収等）（３名以内）	理学部
8	マンハイム工科大学	ドイツ	平成13年４月18日 平成13年４月18日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	繊維学部
9	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	平成14年３月６日 平成14年３月６日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
10	モンゴル国立農業大学	モンゴル	平成14年９月１日 平成14年９月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	農学部
11	ハワイ大学ウィリアムＳ.リチャードソン法科大学院	米国	平成16年２月19日 平成16年２月19日	協定締結	経済学部
12	順天大学校人文社会科学大学	韓国	平成16年３月２日 平成16年３月２日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	経済学部
13	チュラロンコン大学理学部	タイ	平成16年11月１日 平成16年11月１日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	繊維学部
14	建国大学校工科大学	韓国	平成17年１月10日 平成17年１月10日	協定締結 学生交流の覚書（授業料不徴収等）（２名以内）	繊維学部
15	ゴメリ医科大学	ベラルーシ	平成17年１月31日	協定締結	医学部

学部間学術交流締結機関　15（授業料不徴収大学　9）

信州大学留学生センター年報
第5号

編集担当者　上條　厚・村瀬さな子

平成17年11月　発行

発　行　所　信州大学留学生センター
〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
TEL 0263（37）2185
FAX 0263（37）2181
http://isc.shinshu-u.ac.jp